

プレスリリース

イマドキの若者世代 初任給で親へ贈り物は昔の話？ 新入社員 苦手な親孝行を会社がサポート

リフォーム事業をおこなう株式会社NEXTAGE GROUP（本社：東京都港区、代表取締役社長：佐々木洋寧）は、2017年の新入社員19名を対象に、夏季休暇を使用した『親孝行手当』を2017年8月より開始します。

■新入社員限定 両親と会う機会を提供

『親孝行手当』は、新入社員を対象にした制度で、両親へ感謝の気持ちの意識の向上を目的としています。入社1年目の夏季休暇に、両親に食事やプレゼントを贈ると、実家までの交通費を会社が全額負担したり、昇進時には、両親に報告をしに行くための、実家までの交通費と両親との食事代を支給します。制度を利用する社員は、親孝行の様子を写真や動画で残し、会社に報告します。

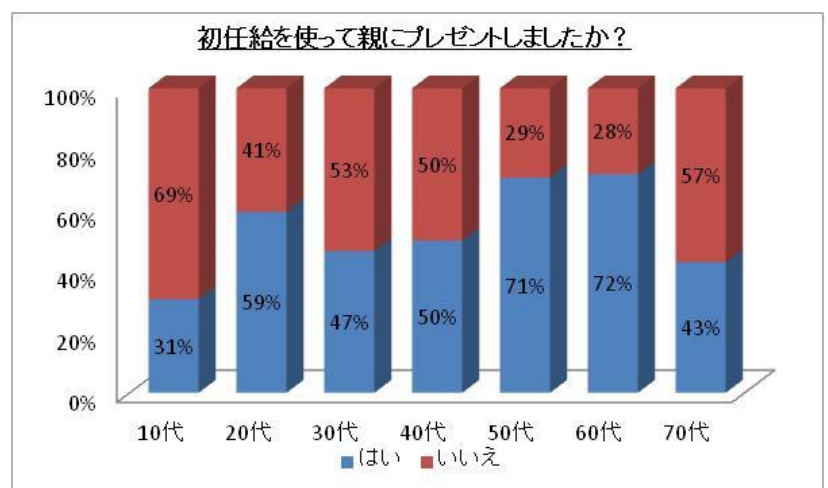
当社がおこなう住環境の事業は、顧客と信頼関係を築き、長く付き合うビジネススタイルです。そのため、社員は気配りや思いやりを持つことが重要と捉えています。『親孝行手当』は、新入社員が両親に感謝の気持ちを伝える機会を設けることで、仕事上にもより良い効果をもたらすと考えています。



代表 佐々木から新入社員へ交通費を支給

■若い世代 親孝行できていない意識を実感

以前は、社会人となると、育ててくれたことへの感謝の気持ちとして、初任給で両親に食事やプレゼントを贈ることは一般的でした。しかし、時代の変化も伴って、最近では、両親に対する感謝の気持ちを伝えることが希薄になっています。当社の従業員におこなった親孝行に関するアンケートでは、10代の社員の約7割が、初任給で両親にプレゼントは贈っていません。20代の社員も、初任給でプレゼントを贈る意識に差があります。また、10代、20代の社員の約5割以上は、親孝行ができていないと意識はしているものの、「お金の余裕がない」「実際に何をしたいかわからない」「遠方に住んでいるから」などの理由が挙げられました。



（当社調べ：10代～70代の307名、2017年6月実施）

この結果を踏まえて、当社では、毎年1月に開催する全社員が一同に集まる「総会」で、数名の社員には親孝行のエピソードを発表の場を設ける予定です。

『親孝行手当』は、社員の家族が仕事の様子や状況を理解したり、地方出身の新入社員が掛かりやすいホームシックの回避にもつながりやすいため、当社は社員の積極的な制度の活用に取り組んでいきます。

【『親孝行手当』の概要】

名称：『親孝行手当』

開始日： 2017年8月

対象者： 高校、大学を2017年3月に卒業した新入社員

- 内容：
- ・両親へ感謝の気持ちの意識の向上を目的に、制度が誕生
 - ・入社1年目の夏季休暇に、育ててくれた両親に感謝の気持ちを込めて食事やプレゼントをすると、実家までの交通費を支給
 - ・昇進時には、両親に報告をしに行くための、実家までの交通費と両親との食事代が支給
 - ・制度を利用する社員は、親孝行の様子を写真や動画で残し、会社に報告
 - ・毎年1月に開催の、全社員が一同に集まる「総会」で、数名の社員には親孝行のエピソードを発表の場を設ける予定

【制度を利用する社員】

名前：佐藤 魁星

年齢：19歳

部署：千葉支店 施工部

親孝行の内容：両親が東京へ来ることがないので、東京土産を渡し、焼肉へ連れて行く。あらかじめ焼肉を予約しておいて、帰る日程を伝えず、サプライズを計画。ご飯を食べた後東京土産を渡す。



名前：本間 涼

年齢：18歳

部署：千葉支店 施工部

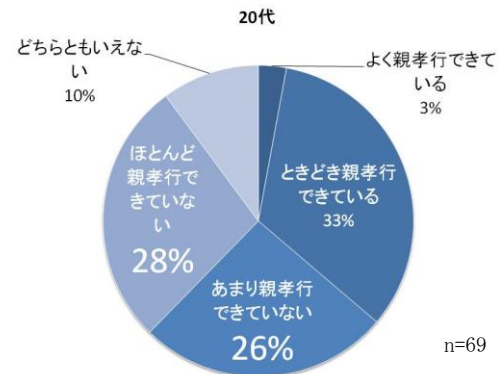
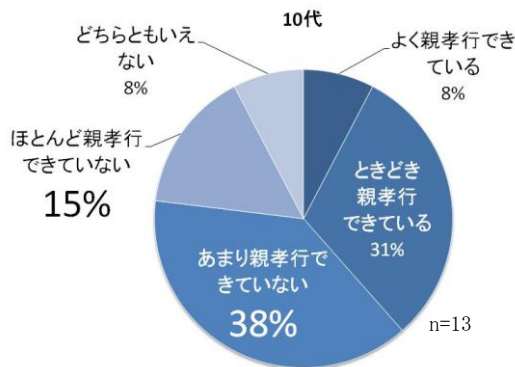
親孝行の内容：地元のご飯屋へ行く。事前に両親が欲しいものを、兄妹にリサーチして、プレゼントを渡す。小さい頃、父が大切にしていた外車のラジコンを壊してしまったことを思い出し、誕生日には毎回外車のラジコンをプレゼントし、将来的には本物の車をプレゼントしたいと計画中。



【社員アンケート「親孝行について」】

親孝行はしている？

(当社調べ：複数回答、2017年6月実施)



親孝行が出来ない理由は？

